

◆取組のポイント

*以下、学校名を南小と表記

- アンケート結果を分析し、各学級で重点的に働きかける要素を決めて実践した。
- 教師が受容的に子どもと接するとともに、子ども同士の良好な人間関係づくりを支援して、安心して学べる環境をつくった。
- 日々の様々な教育活動の中で、一人一人の意欲の状態に応じた指導を行った。
- 家庭との連携を図って、学ぶ意欲を喚起した。

◆学校課題との関連

研究主題：わかる・できる・楽しい授業をめざして
～自ら考え、伝え合い、学び合う活動の充実～

研究の重点

- 目指す授業実現のために
 - ・伝え合い、学び合う活動を充実するための指導法の工夫や授業改善の手法
- 授業を支える手立て
 - ・伝え合う力を高めるための日常場面での指導の工夫
 - ・意欲向上のための学習環境の工夫
 - ・児童の実態把握や保護者への啓発
 - ・Q-Uテスト年間2回実施

南小の学校課題と、学ぶ意欲の「協同学習」や「深い思考」、「安心して学べる環境」とは関わりが深く、学ぶ意欲の構成要素に働きかけることは、学校課題解決の一助になると考えられます。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

	安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
3年B組	3.35	3.42	3.60	3.54	3.64	2.72	3.74
4年D組	3.05	2.83	3.20	2.77	3.22	2.28	3.33
6年C組	3.10	3.04	3.44	3.46	3.35	2.46	3.42

	情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
3年B組	3.34	3.26	3.22	3.30	3.38	3.20
4年D組	2.85	2.33	2.72	2.67	2.82	3.17
6年C組	2.73	2.85	3.06	3.10	2.73	3.15

観察から感じていた課題やアンケートの結果を基に、学級ごとに重点的に働きかける要素を決めて、授業、学校行事、朝の会・帰りの会などの様々な教育活動の中で、学級担任が働きかけを工夫しました。第2回のアンケートで複数の項目に上昇が見られた学級の中から、3人の教諭の取組を紹介します。

(1) B教諭の取組

子どもの興味・関心から学習課題を設定する

事例1 総合的な学習の時間 3年 「いろいろな仕事調べ」

社会科「人びとの仕事とわたしの暮らし ～ものをつくるしごと～」で、市内を巡る活動をしたとき、子どもたちは、バスの中から見えた様々な職場で働く人々に関心をもちました。そこで、B教諭は「もっといろいろな仕事があるかもしれないね。」と投げかけ、「いろいろな仕事調べ」というテーマで総合的な学習の時間につなげました。

調べることの楽しさを体験させる（知的好奇心、情報収集）

総合的な学習が始まったばかりの3年生に対して、図書による調べ方や、インタビューの仕方などを指導するとともに、「自分が知らなかったことを調べていくのは楽しいことである」ということを伝えました。

このように、学習する過程で子どもが興味を示したことを基に、次の課題を設定したり、さらに調べさせたり、他教科の学習と関連付けたりすることは、子どもの知的好奇心を高めることにつながると考えられます。

1時間ごとの学びを整理させる（おもしろさ・楽しさ）

B教諭は、総合的な学習の時間では、毎時間の学びを児童に意識させることが大切であると考えています。そこで、毎時間の授業の終わりには、「きょうのなるほど」のコーナーに、学習を通して分かったことを書かせています。自分の学習内容を振り返ることで、分かることや知ることへの喜びを味わい、自分の頑張りに気付いたり、新たな疑問をもったりすることができます。

スーパーマーケット

○調べたこと○

〔レジの仕事〕

レジのところまで買いたいものを持っていくと係りの人がねだんの計算をしてくれます。といっても、ラベルをきかいにでさせば、すぐにいくら買ったかがわかるしくみになっています。

〔売り場ではたらく人〕 <中略>

！きょうのなるほど！

スーパーマーケットでは、ならべ方やいろいろとくふうしていてすごい！！

バーコードもついていてべんりていいことがわかった。

話し合いの内容を文字化して、思考を深める（深い思考、有能感）

【話し合いの様子】



〔話し合いにホワイトボードを活用したことの効果〕

- ・発言のキーワードを書くことで、意見の共通点、相違点などをとらえることができる。
- ・出された意見を見ながら練り上げができる。
- ・思考する言葉を共有でき、考えを深めることにつながる。

個のよさが生きる言葉かけをする

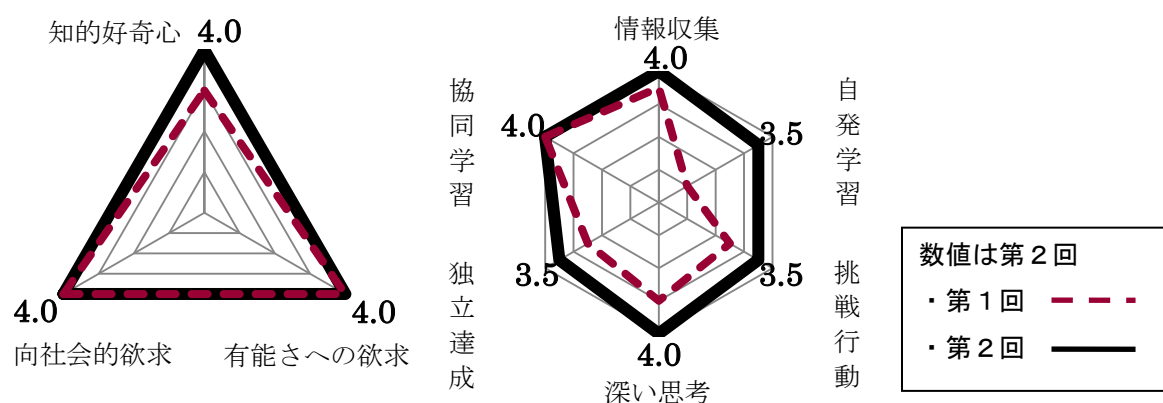
事例2 総合的な学習の時間 3年 「新聞記事から考えよう」

意図的な授業の計画と言葉かけ（自発学習）

Nさんは、じっくり考えたり話し合ったりすることが好きなタイプです。第1回の結果から、他の項目に比べ、「自発学習」の数値が低い傾向にあることが分かりました。

そこで、新聞記事を用いた授業では、Nさんの発言や書き込み等をほめて、学級に広める機会をつくりました。その後、自分から進んで学習に取り組むNさんの姿が見られるようになりました。自分の考えを発表し認められる機会を得たことが、「自発学習」はもちろん、学習行動が全般の伸びに影響しているのではないかと考えられます。

【Nさんの2回のアンケートの比較】



アンケートの結果などを基に、一人一人の児童の傾向を把握した上で、その子のよさを伸ばそうと、意図的に言葉かけをしました。

言葉かけの例

「目の付け所がちがうね」「そういう角度から考えられるんだね」
「一つのことをいろいろな角度から見られてすごいね」

これまで述べてきたように学習課題を工夫したり、意図的に言葉かけを行ったり、学びを振り返らせたりすることで、数値の伸びが見られました。

要素	知的的好奇心	情報収集	挑戦行動	深い思考
第1回	3.42	3.34	3.22	3.30
第2回	3.68	3.58	3.62	3.48

教師の振り返り

- ・学ぶ意欲をはぐくむ働きかけにもいろいろあることが分かりました。
- ・アンケートを実施すると、自分の授業の展開や言葉かけの傾向が分かるので、指導の改善に役立てることができました。

(2) C教諭の取組

C教諭は以前から、学ぶ意欲を育て、学力の向上を図るには、学級経営が基盤となると考えていました。昨年度の4月当初は、友達の発言を嘲笑する雰囲気が学級にあったため、子ども達は、自分の考えを言うことを嫌がるようになりました。そこで、次のような目標を設定し、子ども達に繰り返し話をして、安心して過ごせる学級づくりを目指しました。

○だれもが、気持よく過ごせるクラスにしよう

- ・人を責めない
- ・自分の気持ちを伝える
- ・失敗や間違いは次につながる→間違いに気付いて直すことが大切

目標には、相手を大切にするとともに自分自身も大切にしてほしいという教諭の願いが表れています。そこで、Q-Uテストとソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウターの手法を取り入れて、「安心して学べる環境づくり」で大切な人間関係づくりにあたりました。

人間関係に配慮して安心して学べる環境をつくる

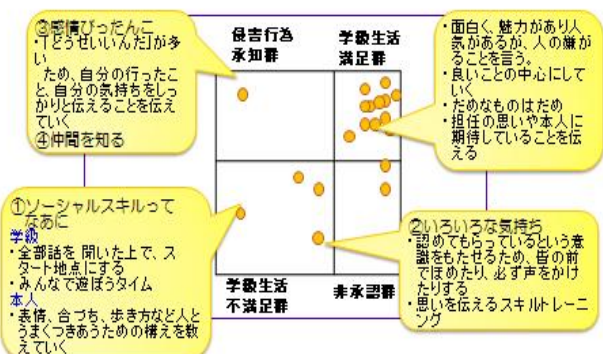
事例3 学級活動 6年 「教室からなくそうNGサイン」

題材のねらい	失敗を責めると逆効果になることに気付き、失敗した人を励ます方法を考え日常で試す。
授業の概要	1 NGのサインを確認する。 2 一生懸命やったのに失敗した時の気持ちを考える。 3 失敗したときに、言われたりされたくないことを考える。 4 失敗した人が元気ややる気を出す方法を考える。 5 本時の学習を振り返る。

Q-Uテストを活用した学級経営（安心して学べる環境づくり）

C教諭は、様々な教育活動の中で、どの子どもをどのように育てるかを思い描いて日々の指導にあたっています。右図のように、Q-Uテストの一覧表に、子どもの様子や目指す姿、指導方針などを書き込み、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウターを通して、よりよい人間関係をつくろうと考えました。このように、思いを目に見えるようにしておくことで、一人一人の子どもへのアプローチの仕方が意識され、成果や課題が実感でき、次の指導に生かすこともできます。

Q-Uテストの一覧表(イメージ)



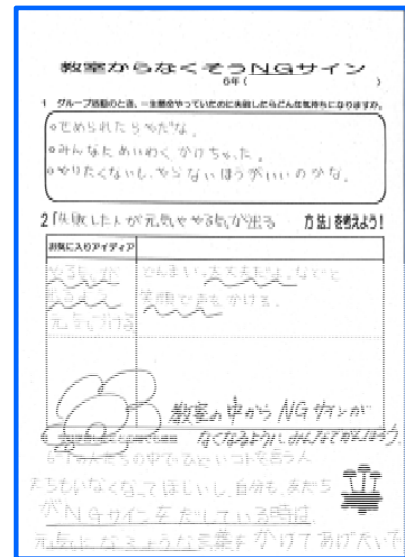
ソーシャルスキルトレーニング、エンカウターの計画

- ①ソーシャルスキルってなあに ②いろいろな気持ち
③感情びったんこ ④仲間を知る etc.

自他を尊重する心を育てる学級活動（安心して学べる環境づくり）

自分たちの問題を真剣に考えて話し合う活動を通して、互いに励まし合いながら学習し、共に成長していくとする気持ちが芽生えてきます。

事例3の他にも、よりよい人間関係を築くためのプログラムとして「あったか言葉とちくちく言葉」「断り上手」「ほめ上手」「頼み上手」などを行いました。これらの取組が功を奏して、互いを尊重する学級の雰囲気になりました。すると、授業中に「分からない、教えて。」という言葉が出るようになりました。そこで、「教えて 教えてタイム」という学び合いの時間を設けるようにしました。



学び合いで深い思考を促す

事例4 算数6年 「順序よく整理して調べよう」

本時のねらい	順序について、もれや重複がないように調べる方法を考える。
本時の概要	1 本時の学習課題をつかむ。 どのお寿司から調べようかな。～何通りあるか考えよう～ 2 お寿司の食べ方が何通りあるのか考えるときの見通しをもつ。 3 自分の考えた方法で答えを求める。 4 それぞれの解決方法を発表し合う。(グループ→全体) 5 もれや重複がないように調べる方法を確認する。

気軽に学び合う「教えて 教えてタイム」（協同学習、深い思考）

この学級では、個人で考えたり、作業したりする際の話し合い活動を「教えて 教えてタイム」と名付けて、短時間で意見交換をしています。隣の友達とペアで、時には座席が近い友達と数名で気軽に話し合い、学習の進め方を確認したり、友達の考えを参考に自分で解いたりしています。何度も経験するうちに、自分の考えを端的にそして、積極的に話せるようになってきました。

【教えて 教えてタイム】



【グループ活動】

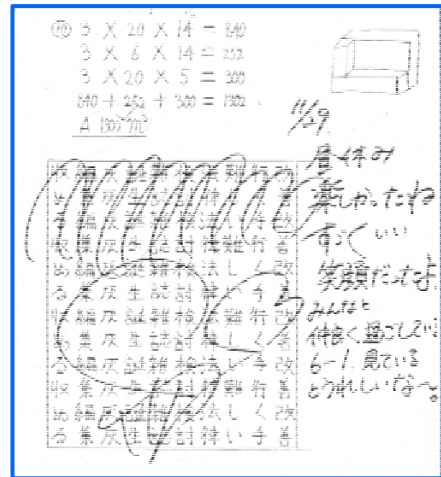


一人一人の子どもを励まして、主体的な行動を促す

自主学习を支援するチャレンジノート（自発学習、有能感）

日常生活の中で、一人一人の子どもに心に届く言葉かけをして、安心感と自信をもたせ、自ら進んで学習できるように支援しています。家庭学習を中心とした自主学习ノートに、学習の内容に対するコメントではなく、教師が観察した子どもの頑張りや成長に対して励ましや賞賛の言葉を書いています。

このことで、「先生は、よいところを見ていてくれる」という安心感が得られて、「もっと頑張ろう」という気持ちが芽生えると考えられます。



【2回のアンケート結果から】

内容	安心して学べる環境	自発学習	深い思考
第1回	3.10	2.85	3.10
第2回	3.34	3.00	3.30

教師の振り返り

学習意欲を高める大きな要因は、安心して学べる環境にあることを確認できました。教師が一人一人を大事にし、望ましい人間関係づくりを支援するような学級経営が、学ぶ意欲を向上させる基盤となると思います。

（3）D教諭の取組

思考の跡を残すことで、考えを深める

事例5 体育4年 「ネット型ゲーム『プレルボール』」

単元のねらい	・ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームができるようにする。 ・運動に進んで取り組み、規則を守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりできるようにする。 ・規則を工夫したり、ゲームに応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。
授業の概要	1 チームで準備運動をする。 2 本時のめあてを知る。 こうげきの作戦を考えよう 3 作戦をチームで考える。（作戦名を「〇〇こうげき」と付ける。） 4 練習試合を行う。 5 作戦の修正をする。 6 練習試合を行う。 7 作戦がうまくいったかどうか、またその理由など、成果を発表し合う。

子どもの頑張りを家庭に伝える学級通信（有能さへの欲求、充実感）

学級への働きかけの一つとして、学級通信を活用して、子どもの頑張りを家庭に伝えました。練習を開始した時期、大会までの中間期、大会後と、時宜をとらえて、その様子を伝えたことで、家庭での励ましや協力が得られ、子どもの意欲も高まったと考えられます。

【学級通信「スタートライン」から】

☆マラソンカード（11月18日第36号より）
来月の持久走大会に向けて、今週の月曜日から、業間休みにマッスルタイムとしてマラソンコースを走っています。（略）

今年度は運動委員会の子どもがつくった十数種類のマラソンカードから好きなカードを選んで使うシステムにしました。子ども達はお気に入りのカードを手に、休み時間などを使って走っています。

特によく走っているのが、わが4年D組の子ども達で、業間や昼休みに熱心に走っています。中には下校した後、学校に再び来て、校庭を走っている子どももいます。とてもうれしく思います。「継続は力なり」です。（略）頑張っている子ども達を応援していきます。

☆がんばった持久走大会（12月9日第40号より）

今週の火曜日に、持久走大会が行われました。（略）一人一人がとてもよい走りをしており、日頃の練習の成果が見事に表れていました。（略）普通ですと、友達と一緒にジョギング程度のスピードで走ることが多いのです。しかし、それではせっかくの練習時間がもったいないので、「一人で、黙々と走ること」に決めました。それからは、みんなその通りにがんばり、本番さながらのスピードで走り込みをしていました。そのがんばりが、走力を高める結果につながりました。（略）同じことをするのなら、全力でやった方がよいことは、このことから明らかにになりました。この調子でこれからも練習を続けたら、来年はもっと速くなるにちがいありません。実際に、5年生まで遅かった子どもが一年間練習を続けて、6年生の時に大差で優勝したのを見たことがあります。やればやるほど速くなるのが、持久走なのです。

授業や行事を通して、学級全体と一人一人に考えをもつことや努力することの大切さを働きかけた結果、次のような数値の伸びが見られました。

要素	向社会的欲求	深い思考	独立達成	充実感
第1回	2.77	2.67	2.82	3.33
第2回	3.02	2.97	3.03	3.55

教師の振り返り

アンケートからは、ある要素が低い子どもや、自信がない子どもが見えてくるので、個別の指導に役立ちました。「自分もやればできる」という気持ちになれるように、ほめたり励ましたりすることが大切です。今後も学ぶ意欲を高めるための手立てを考えていきたいと思います。